

会 議 録

1 会議名	平成26年度第6回宇都宮市上河内自治会議
2 開催日時	平成26年12月18日(木) 午後2時00分～午後4時00分
3 開催場所	宇都宮市上河内地域自治センター 大会議室
4 出席者	<p>【委員】</p> <p>太田正, 東原勸, 山口和子, 神山光男, 川津昭夫, 高橋榮一, 藤枝登茂子, 笹沼志津子, 長谷川良子, 江連脩身, 手塚豊, 手塚正義, 中山善一, 長嶋秀子, 君島恭子, 高橋みどり, 福嶋修</p> <p>【事務局】</p> <p>地域自治制度担当副参事, 上河内地域自治センター所長, 地域経営課長, 地域づくり課長, 保健福祉課長, 産業土木課長, 地域経営課職員</p>
5 公開・非公開	公開
6 傍聴者数	<p>【傍聴者】 なし</p> <p>【記者】 なし</p>
7 会議経過	<p>1 開会</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>3 報告</p> <p>(1) 視察の報告</p> <p>4 議事</p> <p>(1) 地域のまちづくりに関する施策の提案について</p> <p>・提案書(案)の協議</p> <p>5 その他</p> <p>6 閉会</p>

1 開 会	
第6回宇都宮市上河内自治会議開会	
事務局	3人の委員から欠席の連絡を受けており、出席者数は17名で、委員の過半数に達しているため、この会議は成立する。
2 会長あいさつ	
太田会長よりあいさつ	
3 報 告	
(1) 視察の報告について	

会 長	<p>それでは、次第3，報告に入らせていただく。</p> <p>(1) 視察の結果について、事務局から報告願う。</p>
事務局	「資料1-1」,「資料1-2」に基づき報告する。
会 長	<p>他県の取組ではあるが、何か質問等はないか。</p> <p>それでは、私からお聞きしたい。損益については、どうなっているのか。</p>
事務局	3年目から順調に収益が上がってきているが、今後も継続できるかが大きな課題となっているとのことである。実際の損益については、お聞きしていない。
会 長	立ち上げに関して、県や市、JAなどが関わり、オール地域体制で行っているようにお聞きしたが、行政から働きかけなどがあったのか。
事務局	説明してくれた方が、情熱的で幅広い人脈があり議会を含め働きかけを行い、繋げていったという印象を受けた。
会 長	<p>上河内でどういう展開が可能なのか。米粉パンについては、地元ベーカリーとの連携した商品の開発、いのしし肉を活用するため里山保全事業との連携などの取組みが可能との報告があったが、最終的には、地域の多くの方々に成果が還元されるような計画や取組みに示していく。そのことにより、幅広い方々から、協力や支援が受けられるのではないか。一つひとつの取組みを組み合わせながら相乗効果が得られるように、そうした方向性を探りながら行っていければよいのではないか。</p> <p>その他、何かないか。</p>
全委員	意見・質問なし。
4 議 事	
(1) 地域のまちづくりに関する施策の提案について	
会 長	<p>それでは、次第4，議事に移らせていただく。</p> <p>(1) 地域のまちづくりに関する施策の提案について、事務局から説明願う</p>
事務局	「資料2」に基づき説明する。
会 長	<p>まちづくりに関する施策の提案の事務局案について説明があった。これは、今まで委員の皆さんに審議いただいた結果を改めてとりまとめをしたものであり、2年をかけて協議をしてきた結果の集大成となることから、一つひとつ箇所に分けてご確認していただきたい。まず、「はじめに」の所について、質問等はないか。</p>
全委員	意見・質問なし。
会 長	次に、2・3・4ページまでは従来の内容を踏襲したという事で特に変更なしとの説明があったが、最後確認の意味を含め、質問等はないか。

全委員	意見・質問なし。
会 長	次に、5ページ「方策」について、質問等はないか。
全委員	意見・質問なし。
会 長	次に、「実行プラン」について、6・7ページ合わせて進めていく。まず、方策1から質問等はないか。
委 員	視察の報告で、米粉パンというのがあったが、当地域においてもパン屋などもあり、連携を図れば可能ではないかと考え、取り組み①「農業の活性化に向けた6次産業化の推進」の5年後のスケジュールに加えたらどうか。
事務局	では、6次産業化推進の1つとして読んでいただき、5年後にある、「消費者ニーズに対応した商品開発とブランド化の推進」の後にカッコして、「(地元企業との連携など)」という表現をさせていただくというのはいかがでしょうか。
会 長	そのような取り扱いで整理させていただくことでよろしいか。 その他、①で何か質問等はないか。
全委員	意見・質問なし。
会 長	次に、②「遊休地を活用した貸し農園の拡充」について、私から、10年後にある「貸し農園体系の確立」というのは、具体的にはどのようなものと考えているか。
事務局	農村地域で発展してきた上河内の農業を衰退させる事なく、どうまちづくりと結び付けていくかという観点から、現在ある貸し農園の部分を含めて拡大し、地域の耕作放棄地を活用していかに農業に関わっていない人に広めるか、それに対する指導体制など、生産の喜びを味わえる所まで全体的なサイクルを「貸し農園体系」という言葉で表現した。
会 長	ありがとうございました。その他、質問等はないか。
委 員	私が理解していたのはそうした大きい事ではなく、団地に住む方などに向けた家庭菜園的なものを、農地を借りて行なうイメージでした。
会 長	捉え方の違いはあるが、上河内地域にとって適合するような、実現性や将来性のある内容にしていく必要があると思う。 今、事務局側の解釈と委員の発言内容については、事業の規模や個々のイメージに違いはあるかもしれないが、貸し農園を持続的・継続的な事業として取り組み、地域全体で回していけるような体制を作っていきたいという所で、方向性は違ってない印象を受けた。その他、質問等はないか。
委 員	私も委員の意見と同じ感覚を持っていた一人である。近所の人に貸し農園について聞いたところ「健康のためにやってみたい」という人が結構多いのも事実である。東京などでは、ビルの屋上などにも貸し農園が

	<p>あり、道具が全部揃い、指導者も居て、家族で体験でき、楽しめる。そういう施設があるようだ。地域として実際に作ったら色々な意味でコミュニケーションができ、今までと違うまちづくりができるのでは、と思った。</p> <p>また、6次産業化についても、「加工・販売するという事はできるので参加したいが、10年後の話となるとだいぶ先の事である」という話もあり、実行するのであれば、いつ・どこで・誰がというのを早く地域の皆さんにアピールしてみてもどうか。また、先ほど視察の報告で、最初はどのような取組みをし、どのくらいの期間で採算の取れる事業になったのか、そういう事に興味があり、もう少し聞いてみたい。</p>
会 長	<p>大変的確なご指摘をいただいた。</p> <p>貸し農園について、上河内地域住民の方からのニーズがあり、要望にどう応えていけるのか、という内容だが、どこでどのくらいの単位で貸し出せるかを具体化していく中で吟味していかなければいけない事柄だと思う。いずれにしても貸し農園といったものを地元のニーズを受けとめ、それを持続可能な形で年々拡大するなり、継続できるように進めていく必要があり、それを地域全体としてどう支えていけるのかについて、農業指導や、農作業に必要な機材の提供などをどうするかなどの必要性をご指摘いただいた。</p> <p>また、先ほどの視察報告の中で、どのような経緯で6次産業化に取り組むようになり、誰がけん引し、事業計画をどう立て、その計画が実績の中でどの様な所で苦労したのか流れが分かれば、というご指摘だと思う。視察で確認できた所があれば教えていただきたい。</p>
事務局	<p>明峰ファームは元々、機械共同利用を目的とした任意の組合として設立された。約10年を経て機械の更新時期や農業従事者の高齢化があり、より効率的で安定的な組織運営の機運が高まり法人化に踏み切ったという事であった。その後、6次産業化の取組みについては、米に付加価値を付け売り上げを伸ばし、組織経営を更に安定させる必要があるという事で、小松市役所に相談して進めた経緯がある。元々は明峰ファームの中で加工するという事で、自分で作った米を加工して製品化し、販売すると考えていたという事だが、組織の中では兼業農家が多く、専門性が必要であったり、また、米粉加工を推進する農政局の指導もあり、別組織を設立したとのことである。</p>
会 長	<p>ありがとうございました。その他、質問等はないか。</p>
副会長	<p>貸し農園で、5年後に「貸し農園の拡大」、10年後に「貸し農園体系の確立」となっているが、これは、同時に進められると思うがどうか。</p>
事務局	<p>需要と供給のバランスがあり、まず5年後には拡大し、徐々に貸す方、借りる方、栽培の指導も充実させた体系を10年後までには確立してい</p>

	くという意味合いの長期的な視点で入れさせていただいた。
会 長	今の説明の主旨からすると、段階的にではなく、できるだけ早く確立するに越した事はないという事でよろしいか。
事務局	では5年後までに「貸し農園体系の確立」というのを入れて、10年後は「地域農業の活性化」として記載するというのではどうか。
会 長	10年後には地域農業が活性化している所を強調するということで、そのように修正させていただく。 次に、方策2について質問等はないか。
事務局	1つ再検討していただきたいものがあり、⑤「サイクリングコース設定による交流人口の増加」の10年後に「サイクルロードレースの誘致」とあるが、この1つだけが、宇都宮市だけではなく幅広い協力が必要になり、ハードルの高い取り組みになる気がするが、どうか。
会 長	確かに指摘のように地元だけの熱意だけでは難しい所があると思う。ただそれは不可能ではなく、ロードレースや公式戦などいろいろな選択肢があると思うが、扱い方として事務局の判断では、ここにのせるのは適切でないのではということなのか。
事務局	5年後に「サイクルイベントの開催」という事で、地域ぐるみで取り組めるものを開催し、気運が高まった時に見直しをかけて加えた方が適切と考えた。
会 長	では、異議がなければ「サイクルロードレースの誘致」というのは削除でよろしいか。
全委員	意見・質問なし
会 長	次に、方策3について質問等はないか。
全委員	意見・質問なし
会 長	では私から、⑦「利用者ニーズにあった公共交通の見直し」の5年後までの「ネットワークの確立と（相互乗り入れの実施）」と10年後まで「地域外への乗り継ぎの拡充」とあるが、相互の関係を補足説明願う。
事務局	デマンドタクシーの運行を、まず5年後までに他の地域との相互乗り入れを確実に実施し、その後、乗り継ぎの拡充を確立させる。という事で2つに分けた。 また、提案として、他の地域とのネットワークというよりも、「相互乗り入れの実施」という項目だけにしたい方がいいのかと思う。
会 長	修正を含めた説明である。ほかに質問等ないか。
副会長	この、相互乗り入れの要望は非常に強く、今後ネットワーク型コンパクトシティが実施されると、相互乗り入れをしないと意味がない。そういう意味では10年までと言わず早め実施する事が大切だと思う。

会 長	<p>今のご意見のように、宇都宮市はネットワーク型コンパクトシティを実施していくという意味で、各地域の拠点をしっかり形成した上で、拠点間を結ぶネットワークが是非とも必要になり、その視点から相互乗り入れなり、あるいは地域内交通システムとの接続といったものを組んでいただくというのが不可欠だと思う。</p> <p>ほかに全体を通して質問等なければ、ご審議いただいた結果を次回までに修正する形で見直し、提案書として最終的な形にしたい。</p>
5 その他	
会 長	その他、意見や質問、連絡事項等ないか。
事務局	次の、第7回自治会議の開催は、2月17日（火曜日）になり、詳しい日程等につきましては、決まり次第通知させていただく。
6 閉 会	
会 長	以上で、「平成26年度第6回上河内自治会議」を終了する。